

NPO実践学Ⅳ

森林を活かす取組

日時：平成19年12月23日（日） 10:00～12:00

講師：土岐 修（中日森友隊）

概況



中日新聞社社会事業部 鈴木部長にご講義いただく予定でしたが、体調不良により欠席されたため、ボランティア活動を実際に行っている「中日森友隊」の土岐氏にご講義いただきました。

■中日森友隊の結成

中日森友隊は、平成8年7月、中日新聞社の創業100周年を記念して結成されました。ボランティア団体として、各地で植林、下草刈り、枝打ち、除間伐等の活動や、子どもたちにそれらの作業を体験してもらいながら一緒に活動をしています。

■国民の森の造成

昭和59年9月14日に長野県西部地震(M6.8)が発生し、御嶽山南麓(長野県王滝村)で大崩壊が誘発され土石流となり、ナゴヤドーム29杯分という大量の土砂が流れました。辺りは一変し、濁川の下流には湖(自然湖)が出現しました。たくさんの人が生埋めになる大災害でした。

昭和60年、中部森林管理局と王滝村の呼びかけにより県内外からボランティアが植林作業を行いました。このとき、中日森友隊の前身となるボランティアが集結しました。

昭和62年、中部森林管理局と中日新聞社が共同で「国民の森」を造成、たくさんのボランティアが中心になって、荒廃した土地に緑を取り戻そうと土壌を改良して試行錯誤を重ね、植林作業を行いました。その後も除伐作業等の手入れを続けています。

（災害直後の写真と十年後の復旧した写真を並べて見ると、その見違える風景に、ボランティア活動の継続の力を感しました。）

■未来世紀へつなぐ 緑のバトン

平成12年、中部森林管理局、王滝村、三岳村、中日新聞社、中部日本治山治水連盟、水資源機構が「未来世紀へつなぐ 緑のバトン」実行委員会を設置し、上・下流の行政機関や関係団体が協力して、植樹祭・体験林業などの各種イベントを開催しており、下流域の多くの住民に森林・林業・林産業の応援団になってもらうための活動を行っています。

中日森友隊は、「植樹祭」「どんぐり拾い」のイベントを開催しています。御嶽山麓からどんぐりを拾い、下流の東海地方の小学校にどんぐり(ミズナラ)の里親になって苗木を育ててもらい、その苗木を御嶽山に植樹するというものです。

（苗木を育てた子どもたちからの手紙を見せていただきました。このような交流がボランティア活動に活力を与えてくれるそうです。）